

1. 学校教育目標 「人を大切に、物を大切に、時を大切に」

～発信力・行動力を身につけ、自己肯定感を得られる生徒の育成～

・発信力…自分の思いや考えを分かりやすく、他者へ伝える力。

・行動力（主体性）…自身の意志や考えに基づき、行動する力。

あらゆる教育活動を通して、生徒の発信力・行動力を引き出し、自分の価値や存在意義を前向きに受け止めることのできる生徒を育成する。

2. 学校経営方針**(1) 「教育は未来づくり」を理念として**

意図的・計画的・継続的・組織的に働きかけることにより、生徒の望ましい変容を目指す。すべての教育活動の成果は生徒の変容にある。私たちは、教育を通して「未来づくり」をしているという意識をもち、日々の教育活動にあたっていく。

(2) カリキュラムマネジメントを柱として（みんなが一つの目標に向かって）

個々の教職員の教育観、それぞれの主体性や総意工夫を大切にしつつ、教科の間をつなぎ、学年や学級の間をつなぎ、さらには教職員をつなぐものがカリキュラムマネジメントである。特に今年度は、評価評定に関する研修の充実とGIGAスクール構想のもと、ICT機器やシステムを効果的に活用し、授業改善とともに教育効果の充実を目指す。

(3) 流行を取り入れた不易を大切にする

教育を推進する上で「不易」すなわち過去から受け継がれてきた知・徳・体の調和のとれた生徒の育成を基本とする学校教育の良さを継承しつつ、現在の教育改革の動きに適切に対応し、変化する社会に適応し未来の社会を創造する力を身につけさせる「流行」も大切にしなければならない。不易と流行を見極めながら、双方の融和を図る「流行を取り入れた不易」を追求していく。

(4) 組織体として3つのワークを合言葉に

教職員が一丸となって教育活動を推進するためのキーワードとして、フットワーク・チームワーク・ネットワークを合言葉とする。教職員は自らの資質を高め、それぞれの良さと力を発揮できること（フットワーク）、チームとして一つの同じ方向を向き、お互いが指摘し合い、フォローし合い、認め合えること（チームワーク）、保護者や地域に目を向け、常に情報発信と行動連携が取れること（ネットワーク）を大切にしていく。

(5) 日常の学校生活は「凡事徹底」を貫く

学校の中心は授業である。またベースになるのは学級である。学級や授業におけるルール作りは、どの学級でも、どの授業でも共通に取り組むことが最も大切である。また朝読書・学活・清掃など毎日の積み重ねが大切である。これらの日常の教育活動にこそ「凡事徹底」を貫き、当たり前のことが当たり前にできる学校づくりを目指す。

3. 重点目標**(1) 創意工夫を活かした特色ある教育活動の展開**

①教職員の創意や意見を活かした教育活動の展開

- ②人権教育の視点にたった教育活動の展開
- ③少人数教育やチームティーチングを通して、個の実態に応じたきめ細やかな学習指導の推進
- ④生徒会活動・特別活動・部活動の活性化と充実
- ⑤道徳教育の充実（計画的な実施と評価）
- ⑥総合的な学習の時間の充実（3年間の生徒の成長を見通した取組）
- ⑦「生き方探究キャリアパスポート」等を活用した生き方探究教育の充実

（2）学習指導の充実

- ①授業規律の徹底・教師の5分前行動
- ②タブレット・ICT機器・システム等を活用し、わかる授業・できる授業・楽しい授業に向けた授業改善
- ③「ミライシード」の効果的な活用（学習習慣・基礎学力・自主学習・授業と家庭学習のつながり）
- ④学習のめあて（本時の目標）の明確化と振り返り場面の設定
- ⑤言語活動の充実と協働的な学習の手法を取り入れた伝え合う場面の設定
- ⑥目標と指導と評価の一体化（3観点の見取りの明確化を授業改善に生かす）
- ⑦学校図書館の活用を通した主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実
- ⑧校内研修の充実と互いに学び合い、自己研鑽を積む教職員集団。

（3）生徒指導の充実

- ①人権を尊重し、いじめや暴力を許さない学級集団づくり
- ②教職員と生徒、生徒相互の信頼関係の確立
- ③「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」
- ④個々の状況・課題に応じた適切な支援と教職員間の情報共有（保護者との連携）
- ⑤毎日の積み重ね「凡事徹底」（「凡事徹底」　桂川中学校あたりまえ10か条）
- ⑥正統派の生徒を大切にする学級・学年経営
- ⑦報告・連絡・相談・確認の徹底
- ⑧みんなで、すぐに、粘り強く、小さな問題行動を見逃さない体制づくり
- ⑨生徒の心に寄り添いつつ毅然として行う、心に落ちる指導の完結

（4）人権教育・道徳教育の推進

- ①教職員の人権問題に対する感覚を磨き、認識や理解の深化
- ②人権学習の計画的な実施とあらゆる教育活動の中で、生徒の人権意識の高揚
- ③「考える道徳」「議論する道徳」の実践（授業づくり）
- ④道徳教育は教育活動全体を通じて行うという共通認識
- ⑤日常のあらゆる場面で、生徒の心を耕す指導

（5）特別支援教育の充実

- ①「心のバリアフリー」の推進
- ②支援の必要な生徒への指導の充実（保護者との連携）
- ③「個別の支援・指導計画」の作成と全教職員による情報の共有
- ④通級指導教室担当・スクールカウンセラー・養護教諭との連携
- ⑤ユニバーサルデザインを踏まえた、誰にとってもわかりやすい授業展開

(6) 生徒会活動・部活動・学校行事の充実

- ①生徒会活動の充実・発展（生徒に達成感や成就感を味わわせる）
- ②生徒同士が互いに高め合える集団づくり
- ③部活動の教育的な意義を共通理解し、主体性・自律性・社会性の育成を目指す。

（部活動ガイドラインに沿った指導の徹底）

(7) 健康の増進と体力の向上

- ①命の大切さや心身の健康に対する自覚を高める指導の推進（保健指導・健康教育の充実）
- ②「体力アップ推進プラン」に基づき、生徒が運動に親しみ、体力向上を目指した指導の促進
- ③食育教育に計画的に取り組み、生徒の主体的な基本的生活習慣確立につなげる。

(8) 教職員としての責務と役割を自覚し、創意工夫に富んだ指導の展開（チーム桂川）

- ①情熱と深い愛情に基づき、一人一人の生徒（家庭）の実態に応じた粘り強い指導
- ②「信じる・認める・任せる」互いに尊重し合い、信頼し合い、相互批判ができる教職員集団
- ③教職員間のコミュニケーションを何よりも大切にし、日常的な「報・連・相」
- ④働き方改革の推進（からだも心も元気）

(9) 小中一貫教育と学校・家庭・地域が一体となった教育力の向上

- ①各小中学校の良さを共有し、それぞれの学校の教育活動に生かす取組の推進
- ②学校運営協議会、PTAとの連携による保護者・地域の期待にこたえられる学校づくり
- ③学校の諸行事や学校だより、学年・学級通信、ホームページ、保健だより等を活用した情報発信
- ④学校公開、授業参観の充実と地域行事への協力と積極的な参加
- ⑤PTAメールシステムの導入



「凡事徹底」 桂川中学校 あたりまえ10か条

- 1 「あいさつは、先にする」のがあたりまえ
- 2 「時間（期限）や約束は、守る」のがあたりまえ
- 3 「授業は、その1時間を大切にする」のがあたりまえ
- 4 「清掃活動、みんなでやる」のがあたりまえ
- 5 「言葉遣い、きちんとするのが」のがあたりまえ
- 6 「自分も人も、大切にする」のがあたりまえ
- 7 「人の話は、目と耳と心で聴く」のがあたりまえ
- 8 「決まりごと、守って生活する」のがあたりまえ
- 9 「身だしなみ、ととのえる」のがあたりまえ
- 10 「いじめ・暴力、しない、許さない」のがあたりまえ

令和4年度 桂川中学校 学校教育目標

「人を大切に、物を大切に、時を大切に」

～発信力・行動力を身につけ、自己肯定感を得られる生徒の育成～

＜目指す子ども像＞

「凡事徹底」を貫き、あらゆることに主体性をもって取り組み、自分の夢や希望が語れる生徒。

- (1) 自分の思いや考えを分かりやすく、他者へ伝えることができる。
- (2) 自身の意志や考えに基づき、行動することができる。
- (3) 自分や他者を大切にできる。

＜目指す教職員像＞

あらゆる教育活動を通して、「生き方・生き合いか」を伝えていきたい。

「先生みたいになりたい」「あんな生き方をしてみたい」「先生の生き方や考え方が好き」

- (1) 教育に対する情熱と使命感をもつ教師・・・「使命」とは、命を使うと書く。命=心
- (2) 「子どもの心」に寄り添い、「子どもの心」の中に生きる教師
- (3) 「専門職」としての誇りを持ち、生涯学び続ける教師

＜大切にしていきたいこと＞

- (1) 学校を変えるのは人・・・自分が変わる（成長する）ことで、学校が変わる。
- (2) 不易流行・・・変わらず大切にすることがある。人を変えるには、自分が変わる（成長する）。過去のスタイルにとらわれず、新しく取り入れる。挑戦。
- (3) ビジョン・・・こんなクラスにしたい。こんな授業をして、こんな力をつけさせたい。
- (4) 心を大切に・・・知識より授業に向かう姿勢を大切にしたい。（授業・学級）
何よりも人を大切に思う心を育てたい。（行事・生徒会活動・部活動）
- (5) 「凡事徹底」あたりまえ 10か条を生徒とともに大切にしていく。
 - ・笑顔で、気持ちの良いあいさつができる学校。
- (6) 生徒の主体性を大切にする・・・指導者のビジョンと主体性が必要。
 - ・「信、認、任（しん・にん・にん）」…信じて、認めて、任せる。自己肯定感の高揚。
- (7) 攻めの生徒指導、足で稼ぐ
 - ・迷ったときは目的に帰る。どうしようかと迷ったときはやる。
 - ・自分にとって困難なほう（困難な道）を選択する。
 - ・自分が本当に納得できたかが大切。「これで良かったのか？」と常に自分に問う。
 - ・家庭訪問…顔を見て伝えましょう。時間をかけて誠実に取り組めば、必ず思いは伝わる。
 - ・「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を大切に。
- (8) 地域（行事）や施設（児童館・桂川園）との連携
- (9) 小中一貫（連携）・・・小学校から学ぶもの。中学校から伝えるもの。桂川中学校らしさ。
- (10) 学校の評価・・・生徒の変容で図るもの。子どもがどう変わったか？どう成長したか？
- (11) チーム桂川・・・一人一人の持ち味を大切にし、高めあえる集団。ワークライフバランス。

令和4年度 桂川中学校グランドデザイン

「人を大切に、物を大切に、時を大切に」

～発信力・行動力を身につけ、自己肯定感を得られる生徒の育成～

〈知〉確かな学力

基礎基本の徹底
授業規律の徹底・授業改善
家庭学習の充実

〈徳〉豊かな心

道徳教育の推進
集団づくり
人権教育の充実

〈体〉健やかな体

体力アップ推進プラン
部活動
保健教育（命の教育）

目指す生徒像

- ・自分の思いや考えを分かりやすく、他者へ伝えることができる。
- ・自身の意志や考えに基づき、行動することができる。
- ・自分や他者を大切にできる。

目指す教師像

- ・教育に対する情熱と使命感をもつ教師
「使命」とは、命を使うと書く。命=心
- ・「子どもの心」に寄り添い、「子どもの心」の中に生きる教師
- ・「専門職」としての誇りを持ち、生涯学び続ける教師

「凡事徹底」

桂川中学校 あたりまえ10か条

- 1 「あいさつは、先にする」のがあたりまえ
- 2 「時間（期限）や約束、守る」のがあたりまえ
- 3 「授業は、その1時間を大切にする」のがあたりまえ
- 4 「清掃活動、みんなでやる」のがあたりまえ
- 5 「言葉遣い、きちんとする」のがあたりまえ
- 6 「自分も人も、大切にする」のがあたりまえ
- 7 「人の話、目と耳と心で聴く」のがあたりまえ
- 8 「決まりごと、守って生活する」のがあたりまえ
- 9 「身だしなみ、ととのえる」のがあたりまえ
- 10 「いじめ・暴力、しない、許さない」のがあたりまえ

・チーム桂川（教職員のチームワーク）

- ・教職員の意識改革
- ・ビジョンの明確化

見つける・つなげる・変わる

信じる・認める・任せる

管理職のリーダーシップと
マネジメントスキルの向上

「生き方」「生き合い方」を育てる学校

小中一貫（小学校との連携）・学校運営協議会・おやじの会・PTA・桂川地生連

★教職員…授業交流（互いに学び合い、高め合う）・強みや課題の共有・共に育てる喜び

★児童生徒…行事交流（学校・地域）・体験授業・体験部活動

★保護者…授業参観・オープンスクール・地域行事交流・PTA活動交流

★地域…安心・安全の町づくり、地域の子は地域で育てる。学校の応援団